

(1) 「右からの現状打破」論と戦後平和主義を考える*** 「右からの現状打破」論**

- 「保守＝現状維持、革新＝現状打破」の公式にはまらない
保守と反動とが未分離という日本の政治風土
- 「右からの現状打破」論との闘いにくさ
中曽根の「戦後政治の総決算」論＝⇒国鉄民営化
小泉の「自民党をぶつつぶす」＝⇒郵政民営化
- 「橋下・維新の会」の現状打破的色調<＝> 議会制民主主義の「影」

*** 戦後平和主義**

- 日本：「9条の国」と30万自衛隊の矛盾
9条改変反対と解釈改憲：憲法条文と憲法現実のズレの拡大
条文を守り抜いた成果：イラク派兵特別法の二重の意味
- 西ドイツ：「戦争できる国」（徴兵制・憲法改正）を「侵略しない国」へ
——隣接諸国と共存する道は？
：戦争責任（ナチス追及）・戦後補償の貫徹

(2) 異なる立場・意見をどう超えるか——二つの事例

- 原発問題＝⇒「被害」論から「ライフスタイル」論へ重心移動
「真の科学（者）からの逸脱」、内部被曝の評価
災害地の残留者と避難者、再生エネルギーでの一致
- 靖国問題＝⇒「靖国の思想」の感情的基礎への思い
＝⇒すべての戦没者の追悼へ

(3) 「ローカルに行動」とは

- 社会運動の仕方・方法などの研究：画一主義と経験主義の問題
「非核の会・京都」の活動を参考に供する。
組織・財政・イベント（運動スローガン、形式）
- 非核平和運動の組み立て
四つのレベル：グローバル——リージョナル——ナショナル——ローカル
三つのテーマ：(1)核兵器の廃絶 (2)削減・実験禁止（核物質の生産；原発）
(3)使用・配備の禁止（非核地帯化）
- 論点
東南ア・中南米の動き＝「平和の地域共同体」（ベトナム、キューバを包含）
北東アジアは？：冷戦の未克服（朝鮮戦争の休戦、台湾）
六か国協議の「閉店状況」、尖閣・竹島などの紛争
軍事的覇権主義と交渉・協議の二側面、日韓民間交流？